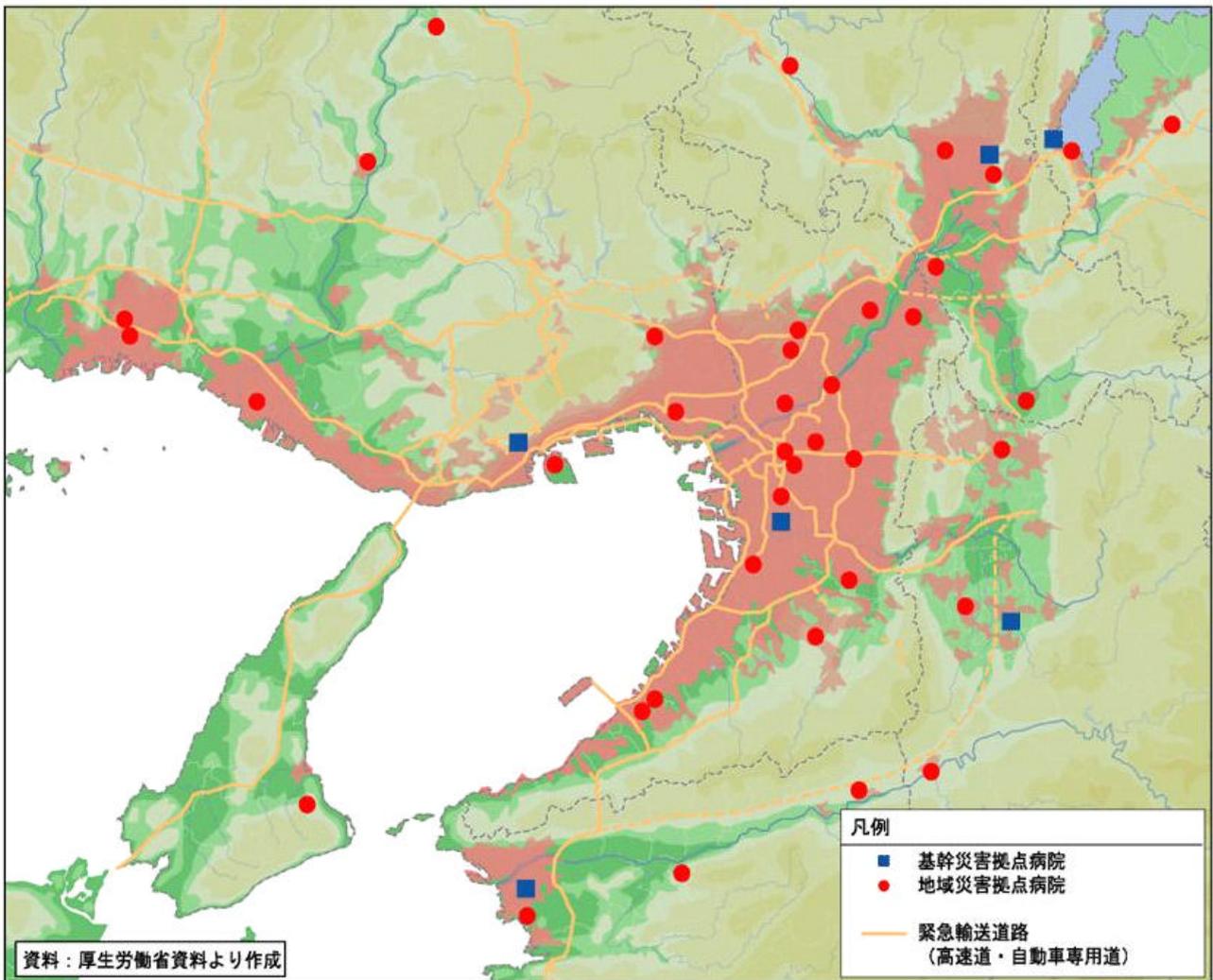
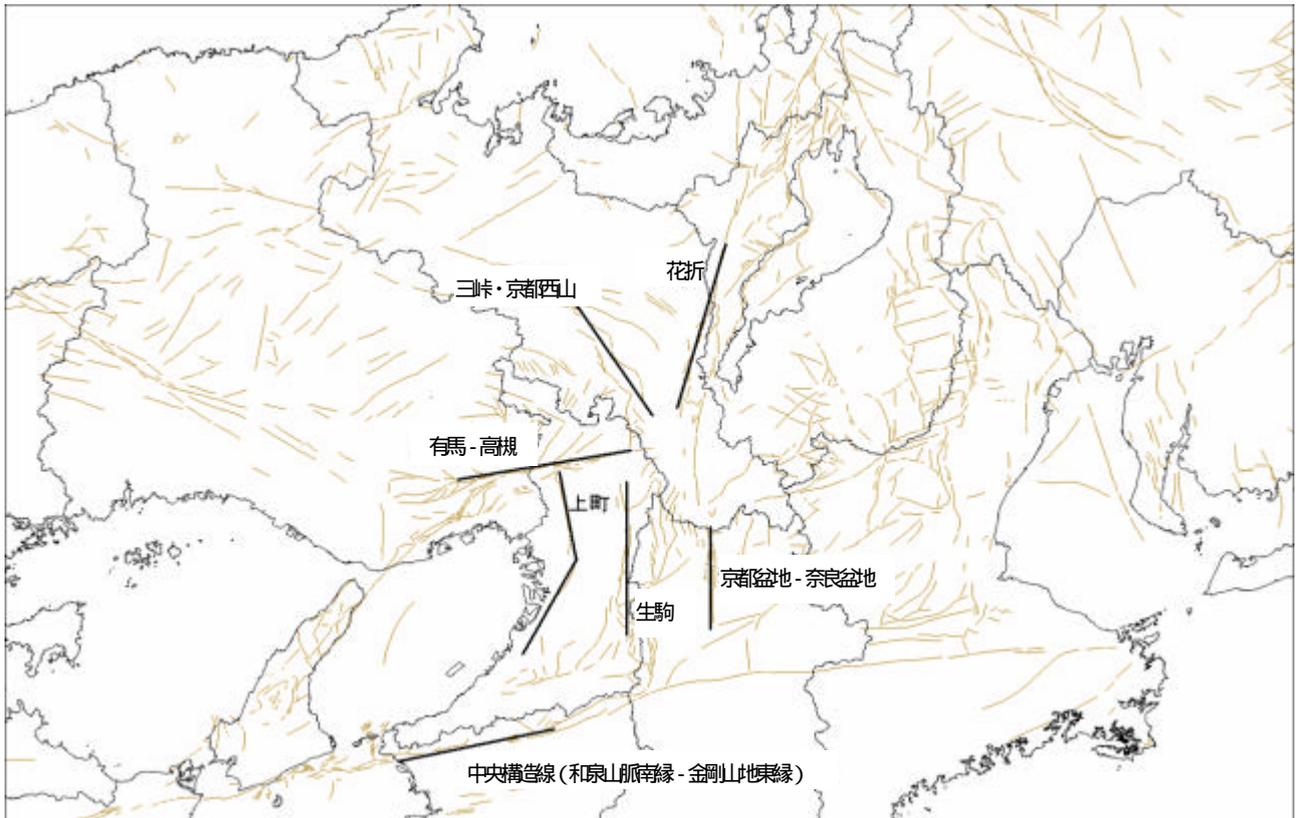


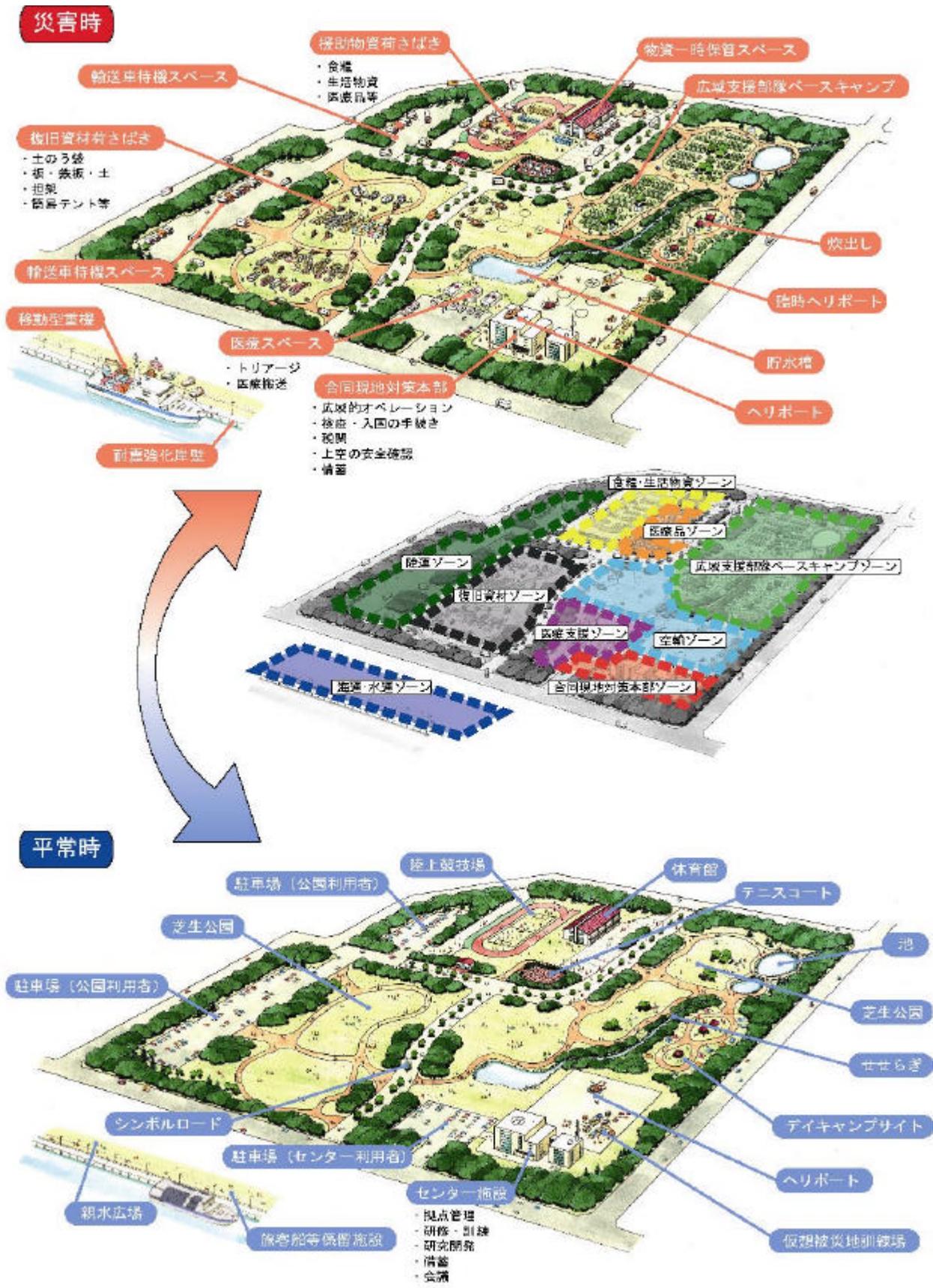
参考資料10 災害拠点病院の分布状況



参考資料 1 1 京阪神都市圏において想定される主な活断層型地震



参考資料 1 2 基幹的広域防災拠点のイメージ（首都圏広域防災拠点整備基本構想より）



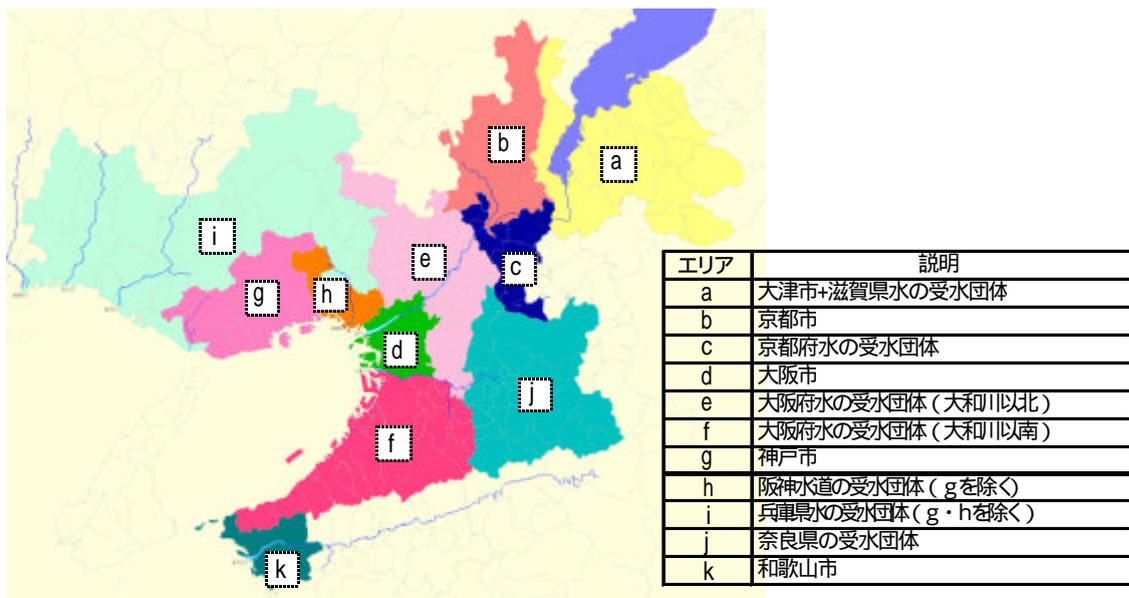
参考資料 1 3 地震時における水道水の供給安定性概略評価

本基本構想の対象である京阪神都市圏において、地震時における水道水の供給安定性について概略評価を行った。

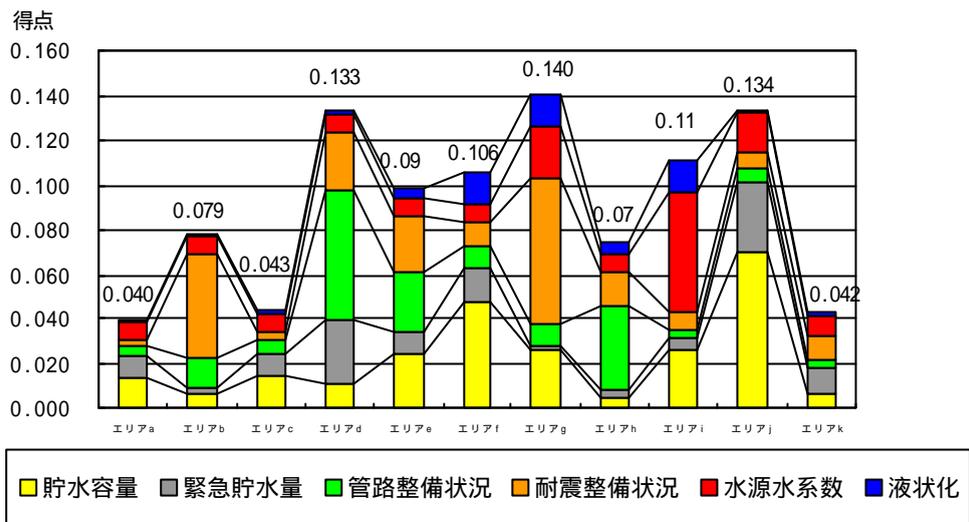
ここでは、京阪神都市圏の主要な上水道事業及び水道用水供給事業ごとについて図 - 1 のように水道の特性（事業区域、供給エリア単位等）に応じたエリア設定を行い、地震時における水道水の供給安定性を計測する6つの項目（貯留施設容量、緊急時貯留量、管路整備状況、管路耐震化レベル、水源水系数、液状化の安定性）を評価指標とし、各事業体に対して行ったアンケート「結果を基にして得点化を行い、各エリアの水道水の供給安定性の相対的な評価を行った。（図 - 2）

この結果、都市部を抱える割合が多いエリア（d、gエリア）では一般的に安定性が高く、都市周縁部（a、c、kエリア）が低い傾向を示した。また、比較的広域な圏域を対象としている水道用水供給事業の供給エリア（e、f、i、jエリア）でも安定性が高い傾向を示している。

兵庫県南部地震の経験から積極的に耐震化整備を推進している神戸市に相当するgエリアを1つの整備目標と考え、gエリアに加え、d、jエリアが高い評価結果と言える。一方、広域連絡管によるバックアップシステム中ではネットワークの末端にあたるbエリア（京都市）及びネットワーク中のcエリア（京都府水の受水エリア）、e、fエリア（大阪府水の受水エリア）、hエリア（阪神水道の受水エリア）が相対的に水道水の供給安定性が低く、バックアップシステムがネットワークとしての機能を果たすためには、c、e、f、hエリアの安定性を確保する必要がある。



< 図 - 1 水道特性に応じたエリア設定 >



< 図 - 2 水道水供給安定性の概略評価結果 >